

令和 6 年香美市議会定例会 5 月臨時会議 市長提案説明

本日、議員の皆さまのご出席をいただき、令和 6 年香美市議会定例会 5 月臨時会議が開かれますことに、厚く御礼申し上げます。

議案の説明に先立ち、私の政治姿勢や市政運営についての考え方についてご説明いたします。

今月 11 日に、本年 4 月より開設されました高知工科大学データ&イノベーション学群の開設記念シンポジウムが、永国寺キャンパスで開催され、参加させて頂きました。

この新たな学群は、データサイエンスとマネジメントが、高度なレベルで学べることに加えて、多様な分野の基礎原理も網羅的に学べるカリキュラムを設置しており、世の中のあらゆる課題に対して、対応できる人材育成を目指しています。

そしてこのミッションを実現するために、ビジネスの第一線で活躍されている経験豊富な実務家教員を多数お迎えしました。このことにより新学群が重視する課題解決型学習(PBL)が、高いレベルで実践されるものと思われまます。

香美市においても、この新学群と共に成長していくべく、学群長である古沢浩教授と意見交換を重ねており、香美市や香美市役所の課題解決に取り組んでいくべく準備を進めております。

この実務家教員の先生方で、特に TOPPAN ホールディングス株式会社・副社長の久保伸一客員教授。Dolby Japan 株式会社・代表取締役社長の大沢幸弘特認教授。マイクロソフトコーポレーション・製造・モビリティインダストリーディレクターの濱口猛智(はまぐちたけとし)特認教授には、直接ご挨拶させて頂きました。

この 3 名の先生方からは、香美市への期待についてもお話頂きましたので、香美市学園都市構想でもお力をお借りできるのではと考えております。TOPPAN ホールディングスとは、既にカミカでお世話になっておりますし、ドルビーは、世界的な音響メーカーであり、映画やアニメ産業などのアイデアを社長からお話し頂いたことから、今後の香美市の産業づくりについても、アドバイス頂けるのではないかと考えている所です。

高知工科大学のデータ&イノベーション学群の開設を機に、大学との連携を更に深め、香美市を学園都市として磨き上げてまいります。

次に、現在パブリックコメントを実施しております（仮称）香美市探究拠点施設整備基本計画（案）について、ご説明いたします。

このパブリックコメントは、シェアオフィスの整備にむけたもので、基本計画策定後、市議会のご理解を得て、設計委託、工事を行い、メインの施設は令和9年度から運用したいと考えております。また、これに先立って、今年度からイベントなどのプレ事業で機運を高めつつ、既存施設を活用しながら運営体制を構築していき、令和8年度にはサテライト施設の本格運用を始めたいと考えております。

私が込めた想いは、児童生徒から社会人まで含む、全ての香美市民が活用できる、探究を中心に置いた施設整備を行い、本当の意味での学園都市を実現させたい、というものです。

また香美市独自の特色として考えているのは、分散型探究拠点施設構想というもので、土佐山田のメイン施設だけでなく、市内全域への波及効果を最大限高めるために、香北エリア、物部エリアにも遊休施設などを活用したサテライト施設を同時に整備して、旧町村の特色を生かした施設運営を目指すことです。

加えて、シェアオフィスの機能として重要である、企業を呼び込む力とビジネスを支援する力を高めるため、3つのポイントを掲げております。

1つ目は、地元の企業が、入居事業者との連携強化を深めるマッチングの場づくりです。例えば、県外からIT関連の入居企業を呼び込み、その企業のノウハウと、香美市の地場産業がコラボレーションすることができれば、新たな商品開発や販路拡大など、新たなビジネスの創造が実現できると考えております。

2つ目は、市内の小・中・高・大学など教育機関が「実践の場」として活用してもらえるよう整備を行います。例えば、入居企業によるインターンシップの受け入れや、学校が休みの日には、一緒に商品開発を行うなどの取り組みです。児童生徒にとっては、身近に、ビジネスをしている大人と接することにより、刺激を受け、将来の夢を見つけたり、意欲を高めたりしてもらえるのではと思います。取り組みが進めば、先進的な技術を持った企業との共同学習など、探究学習のアイデアを深める実践の場として、どの地域にも負けない学園都市としての特色を生み出したいと考えています。

3つ目は、都市圏の先行するシェアオフィスやイノベーション拠点との連携です。香美市の空港から近い立地を生かし、この基本計画作成で参考にさせて頂いた渋谷 QWS (キューズ) や東京で4拠点を同時に運営する MIDORI.so (みどり荘) などのご縁を更に深め、最先端のトレンドをタイムリーに学び、ビジネスチャンス香美市に取り込んでいきます。

以上のように、私が考えるシェアオフィスの形は、香美市全域をフィールドとした探究の拠点整備であり、旧町村ごとの独自の文化や環境を売りにして、チャレンジャーを呼び込み、一緒に成長していくというものです。

特に、香美市が推し進めている「探究」の考え方を中心に置き、チャレンジしようとする人を香美市を挙げて応援するという事で、PRしてまいりたいと思っております。

ワクワクを応援する、新たな拠点整備につきまして、議会の皆様方からもご意見を頂ければと思っております。

次に、教育長選任の同意議案についてです。

白川教育長の任期が、5月25日をもって満了することから、新たに現在香美市教育委員会で推進官としてご活躍いただいている、濱田久美子氏にバトンタッチすべく、提案させていただきます。

私は、香美市長選挙に立候補した際に、公約として「人」づくり～人が輝く香美市を掲げ、保育園・幼稚園から大学まである香美市独自の強みをさらに磨き上げ、小・中学校や山田高校が取り組んでいる探究学習を発展させ、若者の夢を応援する町づくりをめざすことをお約束しました。

この公約を実現するために、最も適任と考えるのが濱田氏です。濱田氏は、平成26年度から30年度まで、5年間の山田高校・校長時代に、当時の時久・香美市教育長と共に「よってたかって生涯学習フォーラム」を立ち上げ、「探究のまち香美市」を象徴するイベントに育て上げました。

私は、なんとしても香美市学園都市構想という、第1期教育振興基本計画後期計画で示された理想を実現したいと思っております。そして「人生を送る中に学びがあり、日常生活や仕事の中で、生きがいや人生の意義を考え、今よりも高みを目指す」という探究的な学びを、香美市のまちづくりの特色にしたいと考えております。

この教育によるまちづくりは、子供の数が劇的に減少する危機的な将来において、若者世代の移住者を増やす、最も重要な施策と考えています。

少し濱田氏のご経歴と、香美市で力を発揮して頂きたい点についてご説明いたします。

改めてまず第1に、香美市学園都市構想についてです。濱田氏は、高知県教育委員会で、連携型中高一貫教育を推進したご経験があり、梶原高校を例に挙げると、カリキュラム開発や中学校との連携強化などによる特色ある学校づくりにより、教育を特色とする梶原町の魅力向上に力を発揮されました。大学や地域との連携を含めた幅広いご経験と行動力を高く評価しております。

第2に、不登校対策についてです。濱田氏は、柔軟な教育システム、学び直しができる学校として、高知北高校などの改編を担当したことに加え、平成18年からの高知県教育委員会生涯学習課長時代に、引きこもりがちとなっている中高生を支援するための若者サポートステーションを立ち上げました。保育保護者会や小中高PTAとの交流もあり、厳しいご家庭のご実情にもお詳しい方です。

また児童クラブと放課後子ども教室推進事業を担当されたことは、香美市にとってもありがたい実績だと認識しております。

第3に教員育成です。高知県教育センター所長時代には、若年教員育成プログラムの拡充や管理職等育成プログラムを立ち上げました。加えて保育所施設職員や幼稚園教員向けの研修、そして保育所所長・幼稚園園長を対象とした講義の経験もおありです。香美市の保育士も含めた教員サポートについて、これまでの経験を活かして、成果を上げて頂けるものと思っております。

私が濱田氏と深く関わるようになったのは、山田高校校長の時ですが、山田高校の進学実績を高め、探究の高校として、全国で知られる学校に磨き上げました。この実績により、現在文部科学省における探究カリキュラムの知恵袋委員会である中央教育審議会・高等学校教育の在り方ワーキンググループの委員をお務めにもなっています。

香美市に来ていただく直前には、高知県教育センターにおいて、IT技術を活用した遠隔教育システムの立ち上げに取り組み、小規模校対策や不登校対策のモデルとして、全国的に注目されています。

そして、昨年4月には、生涯学習振興課推進官として香美市に着任し、現在まで1年間、香美市教育委員会の一員としてお仕事をされ、地域の人脈も構築されております。また、今年2月の「よってたかって生涯学習フォーラム」では、推進官として実務を担われ、大成功に導かれました。

私としましては、これまでのキャリアを生かし、香美市の教育を更にバージョンアップさせ、香美市を学園都市として磨き上げてくれる得難い人材だと、自信をもって提案させていただきます。